

## 情報連絡員報告・10月分

## 製造業で「売上高・増加」が「減少」を上回る

～非製造業でも水面近くへ浮上～

&lt;東京都中央会&gt;

10月の情報連絡員報告によると、製造業の「売上高」前年同月比DI値がプラス13.8を記録していることが明らかになった。非製造業でも-9.4と水面に近づいている。「業界の景況」の前年同月比DI値を見ても、この2ヵ月ほど「好転」の回答が若干増え、今月は製造業-26.2、非製造業-27.1である。景気は、好転したとはいえないが確実に悪化の度を弱めている。ただ、依然として水面下の動きなので楽観は禁物だ。製造業65人、非製造業85人、計150人の集計。

## &lt;特記事項欄より&gt;&gt;

玩具卸 = 最近になっても廃業やリストラの話がちらほら...年末商戦を前にして景況は芳しくない。

食肉業務用卸 = 昨年が悪すぎたので、売上、在庫ともに増加した。原料肉の値上がりにより販売価格も上昇したが、過当競争が激しく収益は悪化している。

理容用卸 = 業界不況の長引くなかで、癒し系のシェービングや癒し系のシャンブーなどをメニュー化し、業績を上げている理容店が増えている。

築地市場青果仲卸 = 小売店舗の減少、流通経路の変化による売上減。天候不順

のために作物の時期のずれによる値の下落。代金回収の遅延による資金繰りの悪化。

ニット製品卸 = 「消費税の総額表示」をめぐり、繊維・流通業界では今、日本アパレル産業協会はじめ関連9団体が日本チェーンストア協会に申し入れを行うなど、混乱回避に向けぎりぎりの調整を行っている。

包装材料販売 = 期待されている景気の上昇機運は依然として当業界にはない。株価、円相場から見ても期待できない。むしろ、段ボール、石油化学製品の値上げが動き出した気配で、どこまでエ

ンドユーザーに転嫁できるか、できなければ一層厳しい状況も予測される。  
 豆腐製造小売 = 秋に「さんま」が出ると豆腐が売れないと業界の先輩が言っていた。10月は売上減少の月である。  
 衣料品小売 = 今月は気温が平年並みに下がり寝具等実用品がよく売れた。既存店ベースでは久しぶりに前年同月の売上金額が確保できた。  
 古書籍販売 = 古書業界の景況に大きな変化は見られず、大枠は低調なまま推移しているが、売上に限って言えば10月は前年比ほぼ同水準になっている。  
 電気機器小売 = 電機業界恒例の秋の展示会で、デジタル関連（プラズマ、液晶テレビ、DVD等）が好調。白物では乾燥機一体型の全自動洗濯機が引き続

き売れている。

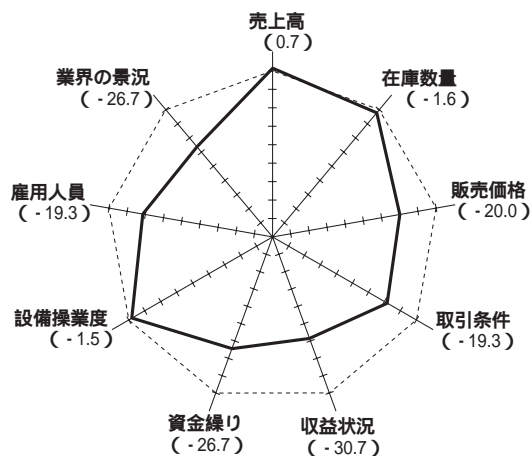
米穀小売 = 平成15年産米の不作、出回りの遅れの影響を受け、米の価格は値上がりしました。しかしながら、スーパー等での安売りは続き、米穀小売店の価格では対抗できず苦勞しています。  
 鮮魚小売 = 加工会社の骨なし魚の売上が順調に伸びているようです。我々も骨なし魚の取扱い調理方法等の研修会を開催し勉強をはじめました。

#### < 要望事項欄より >

\* 「高速別納事業」について、協同組合が関与できる制度の確立に努力して欲しい。一部の悪質な協同組合の問題から端を発したこの問題は我々の協同組合にとってもまさに死活問題である。

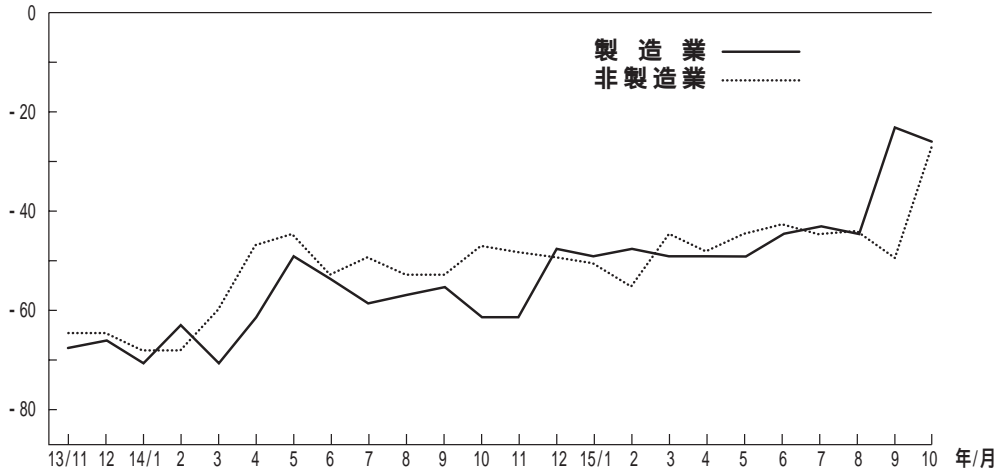
[トラック輸送業]

10月のレーダーチャート（全産業、前年同月比DI値）

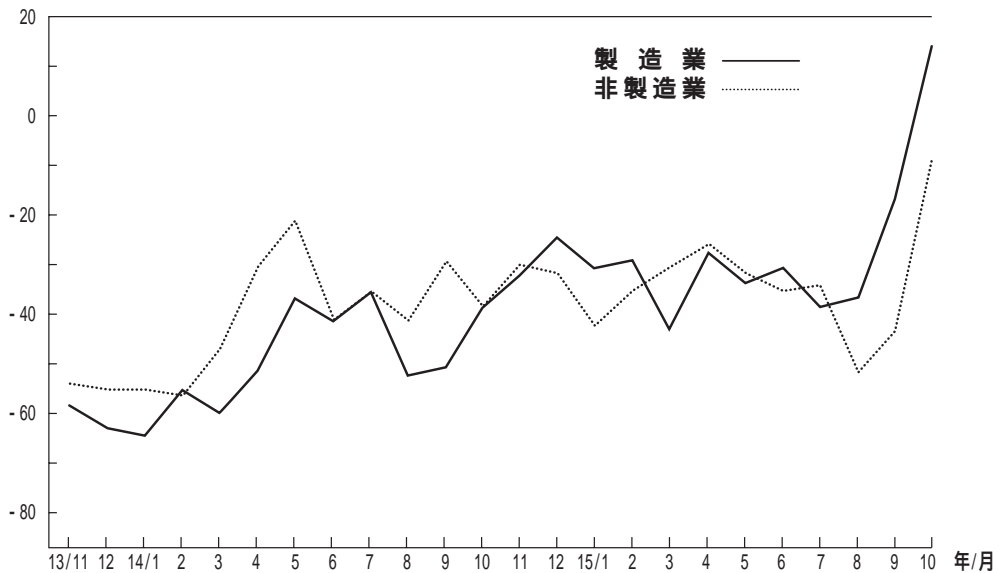


(注)点線の9角形が「DI = 0」を示す。したがって、点線の内側は「減少」「低下」「悪化」、外側は「増加」「上昇」「好転」となる。

業界の景況DIの変化（H13.11～H15.10）  
（前年同月比）



売上高DIの変化（H13.11～H15.10）  
（前年同月比）



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。